

# 経営比較分析表（令和3年度決算）

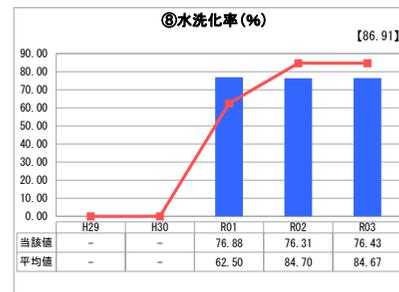
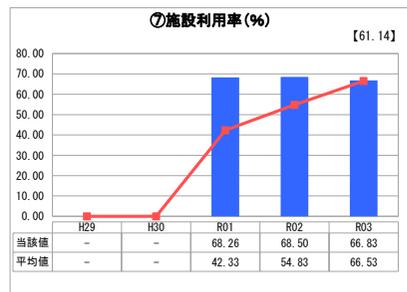
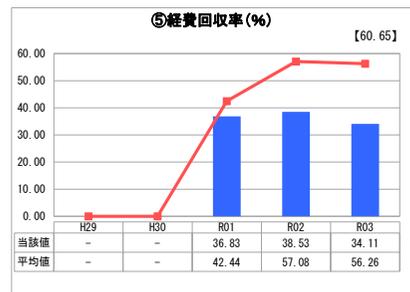
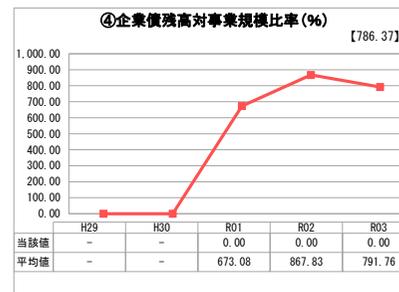
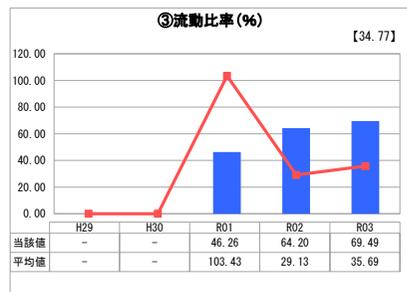
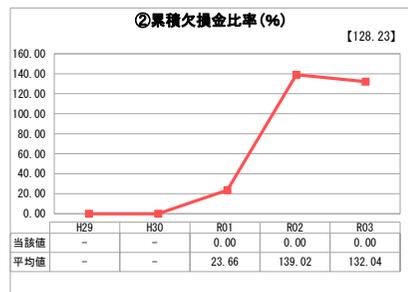
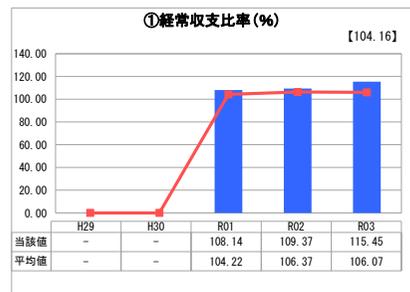
静岡県 御殿場市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	83.68	1.32	95.35	2,570

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
86,778	194.90	445.24
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
1,137	0.30	3,790.00

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和3年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率(①)は100%を超え、累積欠損金比率(②)も0となっているが、経費回収率(⑤)は類似企業平均と比較しても低い水準となっており、不足分は一般会計からの繰入金により補っている。

流動比率(③)が改善したのは、未払金に対する現金預金額が相対的に大きくなったことによる。

また、令和2年度に引き続き、現行の繰出し基準をもとに計算すると当企業の企業債残高は全額一般会計の負担となる見通しである。このため、企業債残高対事業規模比率(④)は0となっている。

施設利用率(⑦)及び水洗化率(⑧)は、当事業の制度上大きく改善することが難しいため、汚水処理原価(⑥)は将来にわたって現在の水準が続き見込みである。

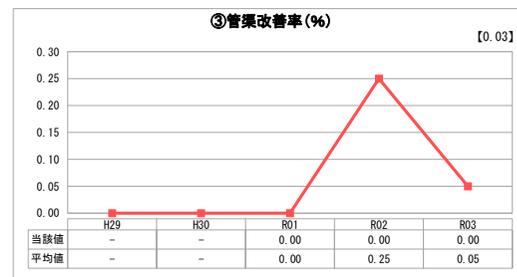
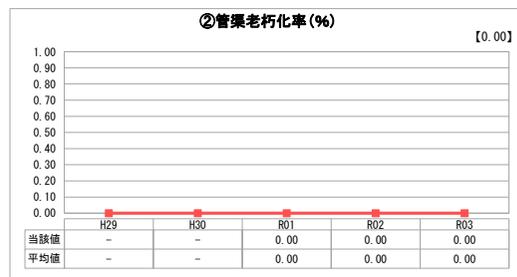
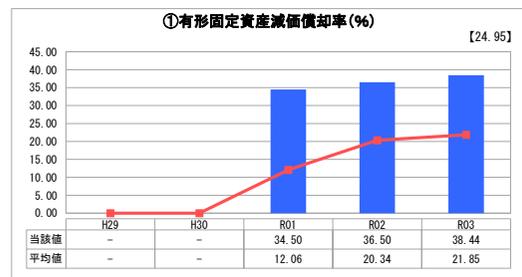
なお、令和3年度には機器の状況を鑑みた処理場設備の点検整備業務を発生したこと等の要因により、汚水処理原価が前年度より大きくなった。

### 2. 老朽化の状況について

管渠老朽化率(②)及び管渠改善率(③)の数値は0となっており、処理場についても稼働後20年未満の施設である。

有形固定資産減価償却率(①)は類似企業平均と比較すると高い数値となっているが、現状では小規模修繕等を実施することにより施設の機能は維持できている。

## 2. 老朽化の状況



## 全体総括

令和2年度に策定した経営戦略に基づき、経費回収率(⑤)の向上に向けた使用料改定の審議会を令和4年度から開催している。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。